

いままで特支学校や特支学級で作業活動を行ってきました。作業について指導要領など公式な解釈や解説があります。ここでは私の経験・研修に基づいた成果と課題を提示します。

今まで栽培・木工の他、ストラップ制作など手芸・工芸などの分野で作業を行ってきました。資料や公開した授業で書いた指導案も残しています。学校によっては大規模や作業学習を行うところもあります。

1990年当時 千葉大付属養護学校では作業学習でまるまる家を一軒、建築していました。二階建ての立派な家で通路などの外構もコンクリで固めた一人前の家でした。

一級建築士や工務店に協力してもらい、材料費も格安で200万程だと言っていました。この分野で権威的な教授の実験的な公開研究会でした。流石にこの規模だと成果と課題が明確に表れわかりやすかったです。

社会で役に立つ労働やものづくりをして社会参加する。そのための準備や教育が作業だとすると、制作するものが高価値があり、日常使われるものほど良い、と研修会で言っていました。私が木工作業で生徒と制作したものは椅子、まな板、本立てなど日常使用して役に立つものです。しかし家となると、格段に使用頻度が高く価値が高い。毎日、家の出来も問われます。作業をした成果を家にいる皆が評価してくれる。作業の張り合いもあるでしょう。

良いことづくめだが、課題もあると思います。まずはその作業を指導する教員達の人的資質や経験・研修が十分であるか、でしょう。家を建てるというと 建築できる知識と技能、資格があるかどうかです。そして家を建てる道

「作業」の定義 作業とは、社会生活の中で、一定の目的を達成するために、一定の材料や道具を用いて、一定の工程を経て、一定の成果を生み出す行為を指す。

栽培木工班の時の指導案

1. 栽培木工班の目的と意義
 (1) 栽培木工班は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。
 (2) 栽培木工班は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。
 (3) 栽培木工班は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。

2. 栽培木工班の指導案
 (1) 栽培木工班の指導案は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。
 (2) 栽培木工班の指導案は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。
 (3) 栽培木工班の指導案は、作業学習の場として、生徒の作業能力を高めることを目的とする。

作業 家を一軒建築



撮影：義高

作業 家を一軒建築



撮影：義高

作業 家を一軒建築



撮影：義高

成果 (千葉大付属)

- ・社会で役立つ労働・ものづくりで社会参加
- ・日常使われ価値が高いほど有益な活動
- ・日々使い、物も制作者も評価される
- ・意欲と技能の向上につながる

具や設備、材料等の費用が用意できるかどうか
です。さらに生徒が安全に作業するための方策
や知識経験も必要でしょう。

やるとすれば、これら課題を解決するためには
かなりの時間と労力・研修が必要でしょうね。

課題

- ・指導者の制作活動での知識・技能
 - ・設備や道具、材料や費用の調達
 - ・生徒が安全作業をする為の技能・経験
- + できた製品を通して社会と繋がる

END